

びぜんきょようすいろ
世界かんがい施設遺産に備前渠用水路が登録されました

「備前渠用水路」が令和2年12月8日にWeb会議で開催された国際かんがい排水委員会（ICID）国際執行理事会において、「世界かんがい施設遺産」に登録されました。
埼玉県内では2施設目の登録となります。

- ◆備前渠用水路は利根川から取水し、埼玉県北部の本庄市、深谷市、熊谷市を流れ、利根川右岸約1,400haの水田にかんがい用水を供給する延長約23kmの農業用水路です。
1604年に江戸幕府代官頭の伊奈備前守忠次により1年間という期間で開削された埼玉県で最古級の用水路で伊奈備前守の官名から「備前堀」の愛称で親しまれています。



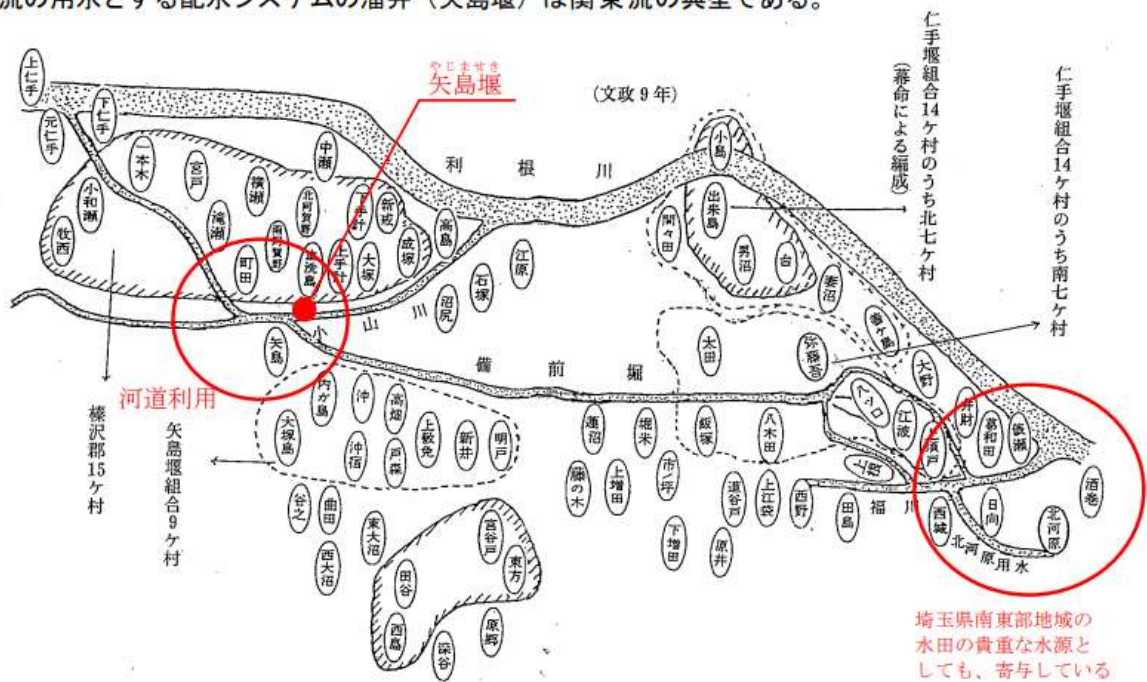
- ◆用水路は、水量や地形を丹念に踏査して築造されていますが、小山川の河道を一部利用して流水を貯留する溜井方式の矢島堰を設け、堰上流地域の排水も利用する効率的な施設計画で当時の最先端技術である関東流(伊奈流)の水利技術が用いられています。また、末流は福川に合流し、中川水系の北河原用水や羽生領用水につながり、山地水源を持たない埼玉県南東部地域の水田の貴重な水源としても寄与しています。



びぜんぼりちょうかんず
備前堀鳥瞰図 1831年

<関東流（伊奈流）による水利技術>

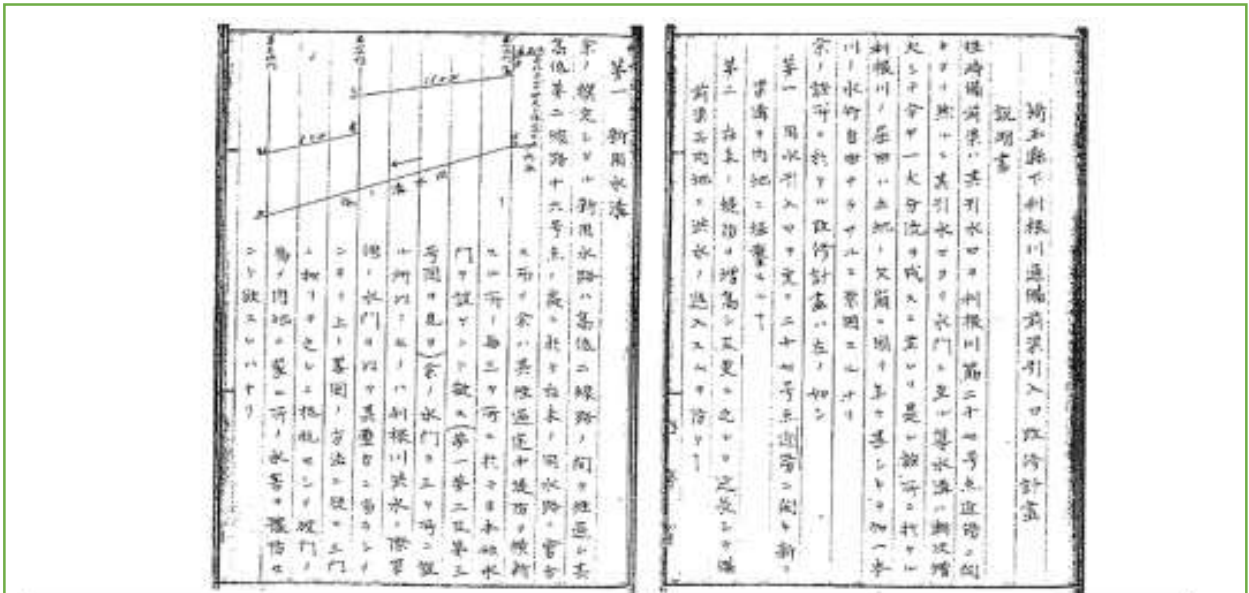
自然をうまく利用した技術で河道の地形を利用し、上流からの流水を受け下流の用水とする配水システムの溜井（矢島堰）は関東流の典型である。



埼玉県南東部地域の
水田の貴重な水源と
しても、寄与している

びぜんぼりまんがむらむらりやくず
備前堀沿岸村々略図
備前堀の歴史 茂木 悟 著 P.56~57より引用

◆1887年に本庄市久々宇地内に移設された取水口（現在の第3樋門）は、オランダ人土木技術者ムルデルが設計した埼玉県初の煉瓦造り水門で、当時の最新技術が導入されており、煉瓦造り河川構造物の先駆けになっています。



オランダ人土木技術者ムルデルが1885年に作成した備前渠取水口改修計画説明書
(埼玉県立文書館蔵)



第3樋門 改築工事記録写真 1919年(本庄市久々宇地内)
「煉瓦造りの水門をコンクリート構造物に改築」

◆用水路の開削から約 400 年を経過した現在も同じ流路で素掘水路区間が多く残っており、開削当時の面影を今に伝える歴史的にも貴重な用水路となっています。また、地下水の涵養、農村景観の維持、生態系の保全、洪水の防止などの多面的機能を有しています。



ほんじょうしにつて
本庄市仁手地内



ほんじょうしこわげ
本庄市小和瀬地内



ふかやしまちだ こやまがわ
深谷市町田地内(小山川合流地点より上流)



ふかやしえはら
深谷市江原地内

◆歴史的な施設

中流部に位置する深谷市上敷免地内には、1895 年日本煉瓦製造会社で製造した煉瓦を輸送するための専用鉄道線が開通しました。備前渠用水路を横断するこの鉄橋は、プレートガーター橋と呼ばれ、隣接する煉瓦積のアーチ橋とともに「国の重要文化財」に指定され、専用線敷地は歩行者専用の遊歩道として親しまれています。



びぜんきょうよてつきょう
備前渠鉄橋 (深谷市上敷免地内)